

2021/4/19

## 柏の景気情報(令和3年3月分)

柏 商 工 会 議 所

(本件担当) 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課  
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18  
TEL : 04-7162-3305  
FAX : 04-7162-3323  
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>  
E-mail : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

## 柏の景気情報（令和3年3月分）

○ 調査期間 : 令和3年3月25日 ~ 令和3年4月7日

○ 調査対象 : 柏市内130事業所及び組合にヒアリング

### <産業別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	130	95	73.1%
建設	32	20	62.5%
製造	35	25	71.4%
卸・小売	38	32	84.2%
サービス	25	18	72.0%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

### 質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

### 質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1増加他の回答割合 - 3減少他の回答割合$$

#### ※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

#### ※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【令和3年3月の業況についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲30.5(前月水準▲43.4)となり、マイナス幅が12.9ポイント縮小した。

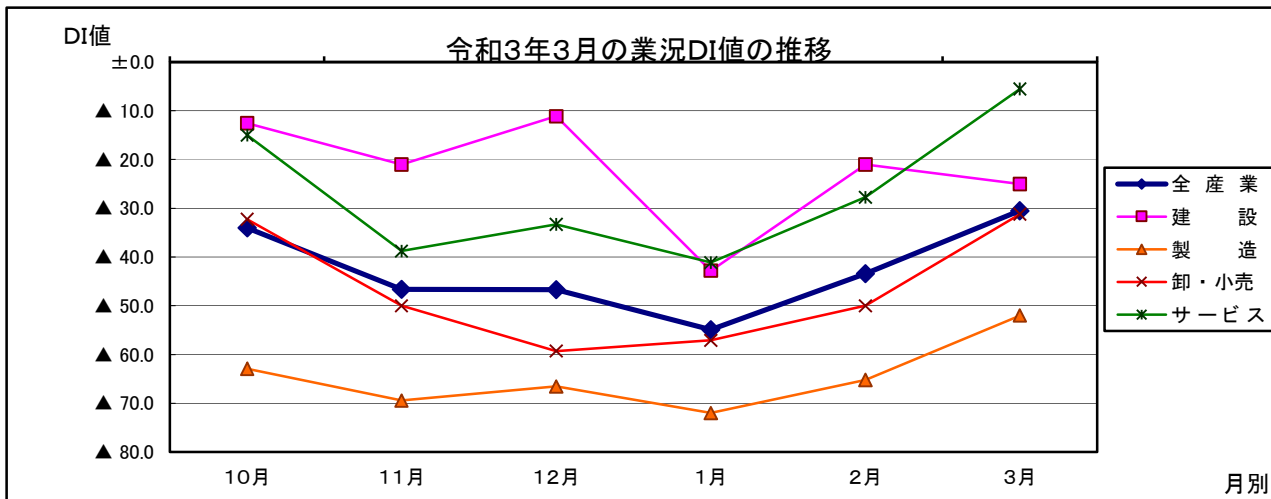
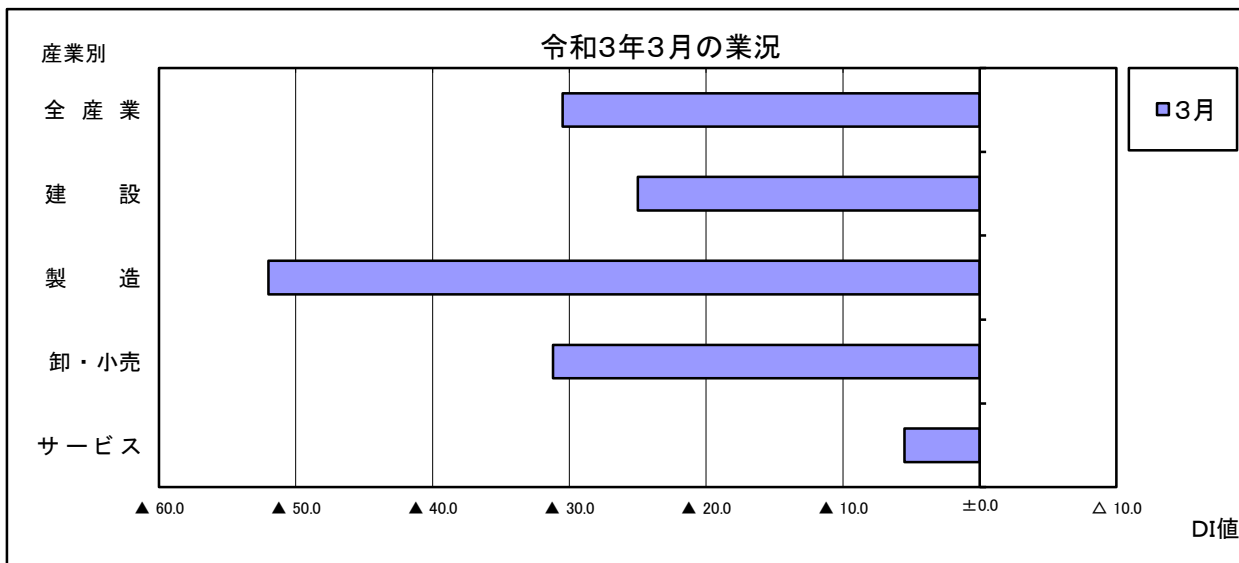
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲5.5(同▲27.7)、卸小売業▲31.2(同▲50.0)、製造業▲52.0(▲65.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲25.0(同▲21.0)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲11.5(前月水準▲25.0)となり、マイナス幅が13.5ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△11.1(同±0.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲8.0(同▲26.0)、卸小売業▲28.1(同▲40.6)、建設業▲10.0(同▲21.0)である。

令和3年3月業況DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 10月	11月	12月	令和3年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
全産業	▲34.0	▲46.6	▲46.7	▲54.9	▲43.4	▲30.5	▲11.5(▲25.0)
建設	▲12.5	▲21.0	▲11.1	▲42.8	▲21.0	▲25.0	▲10.0(▲21.0)
製造	▲62.9	▲69.5	▲66.6	▲72.0	▲65.2	▲52.0	▲8.0(▲26.0)
卸・小売	▲32.2	▲50.0	▲59.3	▲57.1	▲50.0	▲31.2	▲28.1(▲40.6)
サービス	▲15.0	▲38.8	▲33.3	▲41.1	▲27.7	▲5.5	△11.1(±0.0)



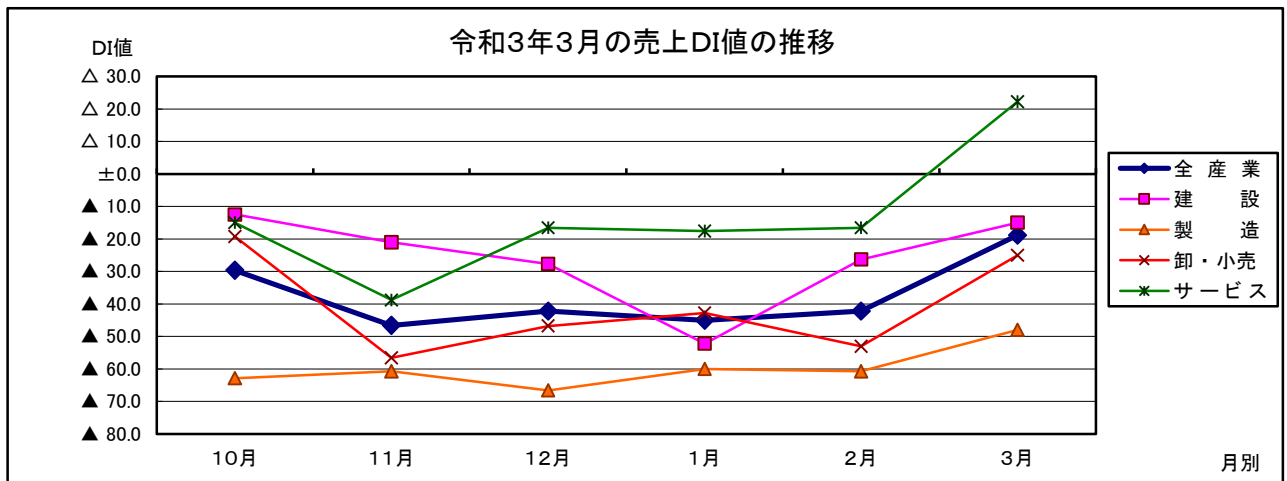
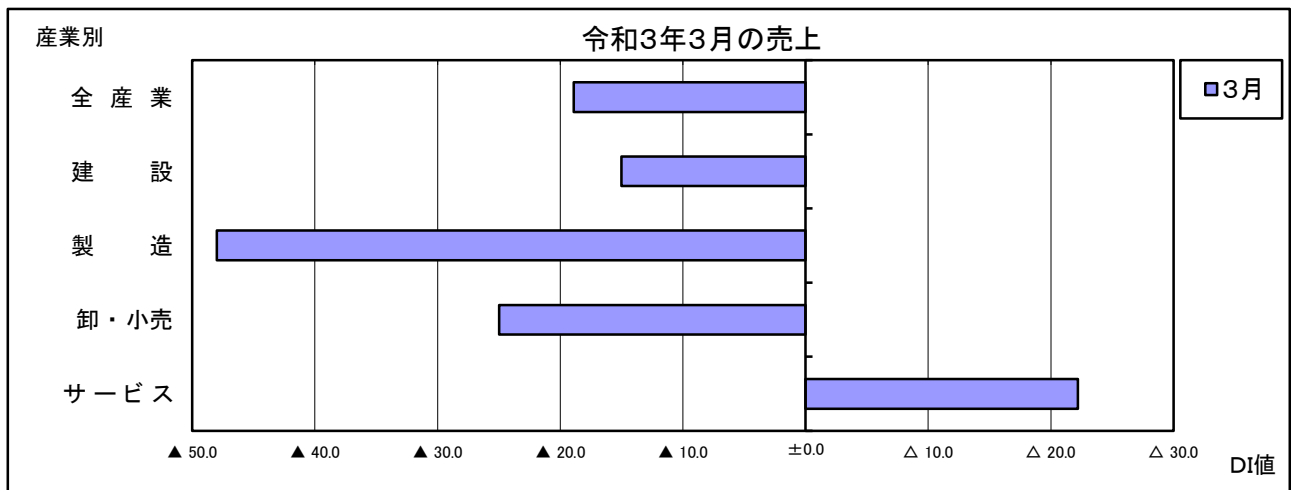
【令和3年3月の売上についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲18.9(前月水準▲42.3)となり、マイナス幅が23.4ポイント縮小した。  
 業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業△22.2(同▲16.6)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲25.0(同▲53.1)、製造業▲48.0(同▲60.8)、建設業▲15.0(同▲26.3)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲17.8(前月水準▲20.6)となり、マイナス幅が2.8ポイント縮小する見通しである。  
 業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲12.0(同▲34.7)、卸小売業▲28.1(同▲34.3)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、サービス業▲5.5(同△16.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲25.0(同▲15.7)である。

令和3年3月の売上DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 10月	11月	12月	令和3年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
全産業	▲29.7	▲46.6	▲42.3	▲45.0	▲42.3	▲18.9	▲17.8(▲20.6)
建設	▲12.5	▲21.0	▲27.7	▲52.3	▲26.3	▲15.0	▲25.0(▲15.7)
製造	▲62.9	▲60.8	▲66.6	▲60.0	▲60.8	▲48.0	▲12.0(▲34.7)
卸・小売	▲19.3	▲56.6	▲46.8	▲42.8	▲53.1	▲25.0	▲28.1(▲34.3)
サービス	▲15.0	▲38.8	▲16.6	▲17.6	▲16.6	△22.2	▲5.5(△16.6)



【令和3年3月の採算についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲26.3(前月水準▲42.3)となり、マイナス幅が16.0ポイント縮小した。

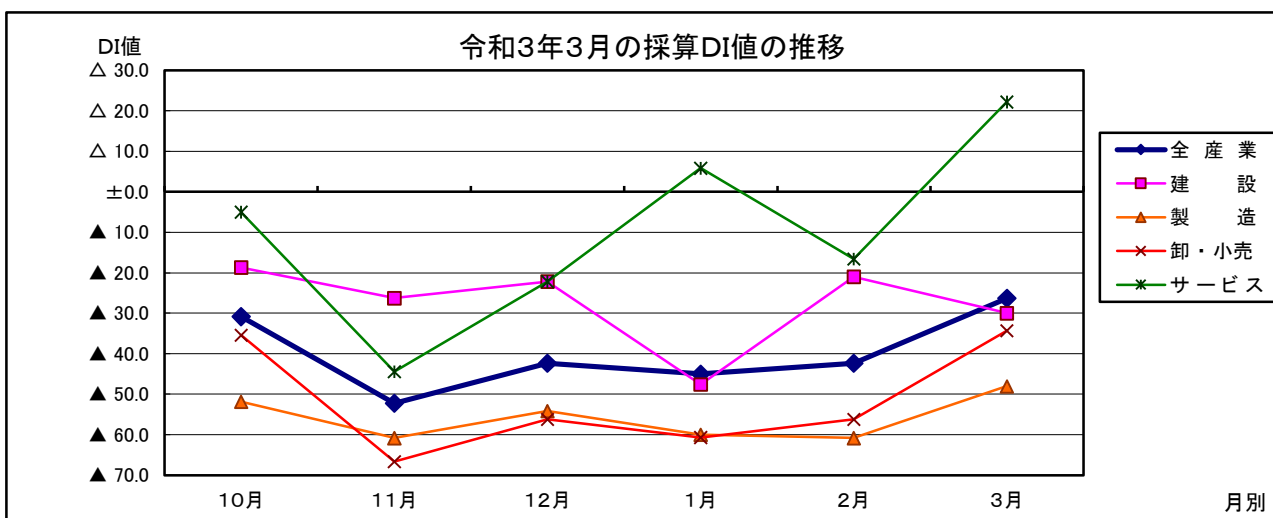
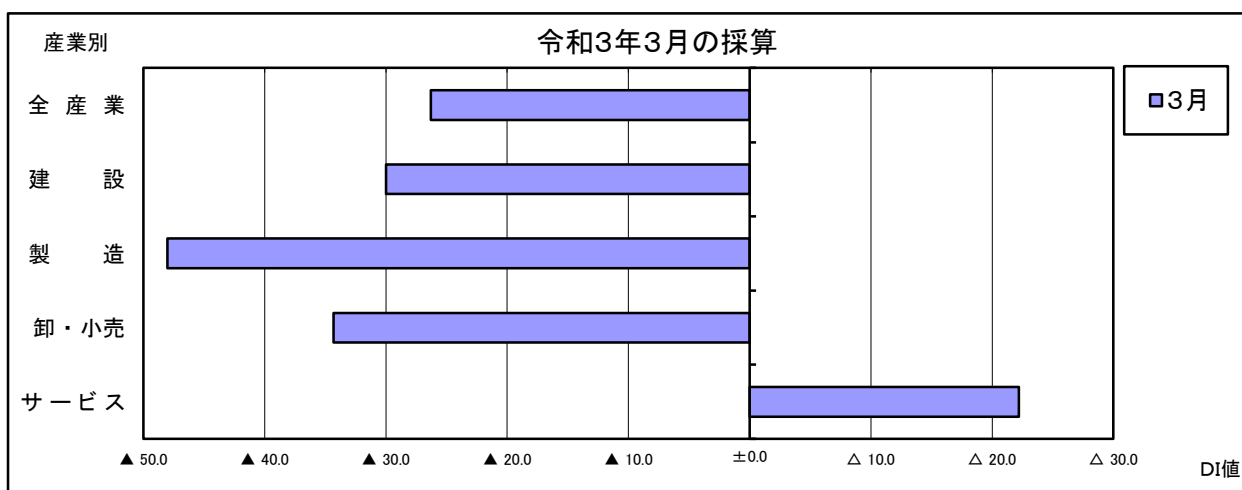
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業△22.2(同▲16.6)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲34.3(同▲56.2)、製造業▲48.0(同▲60.8)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲30.0(同▲21.0)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲17.8(前月水準▲22.8)であり、マイナス幅が5.0ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△11.1(同△5.5)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲8.0(同▲34.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲25.0(同▲21.0)、卸小売業▲34.3(同▲31.2)である。

令和3年3月の採算DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 10月	11月	12月	令和3年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月～6月(3月～5月)
全産業	▲30.8	▲52.2	▲42.3	▲45.0	▲42.3	▲26.3	▲17.8(▲22.8)
建設	▲18.7	▲26.3	▲22.2	▲47.6	▲21.0	▲30.0	▲25.0(▲21.0)
製造	▲51.8	▲60.8	▲54.1	▲60.0	▲60.8	▲48.0	▲8.0(▲34.7)
卸・小売	▲35.4	▲66.6	▲56.2	▲60.7	▲56.2	▲34.3	▲34.3(▲31.2)
サービス	▲5.0	▲44.4	▲22.2	△5.8	▲16.6	△22.2	△11.1(△5.5)



【令和3年3月の仕入単価についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲23.1(前月水準▲16.3)となり、マイナス幅が6.8ポイント拡大した。

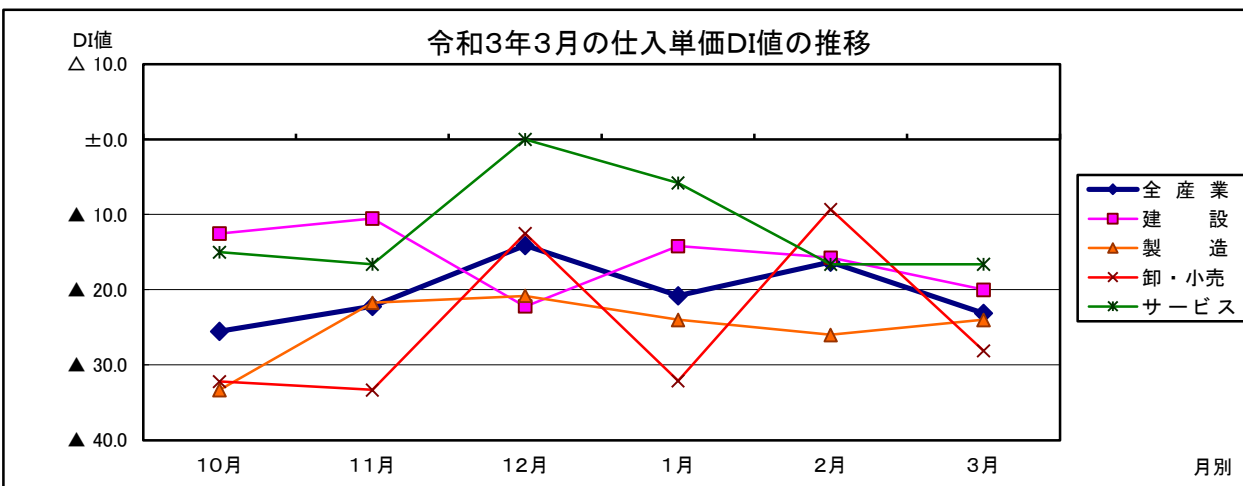
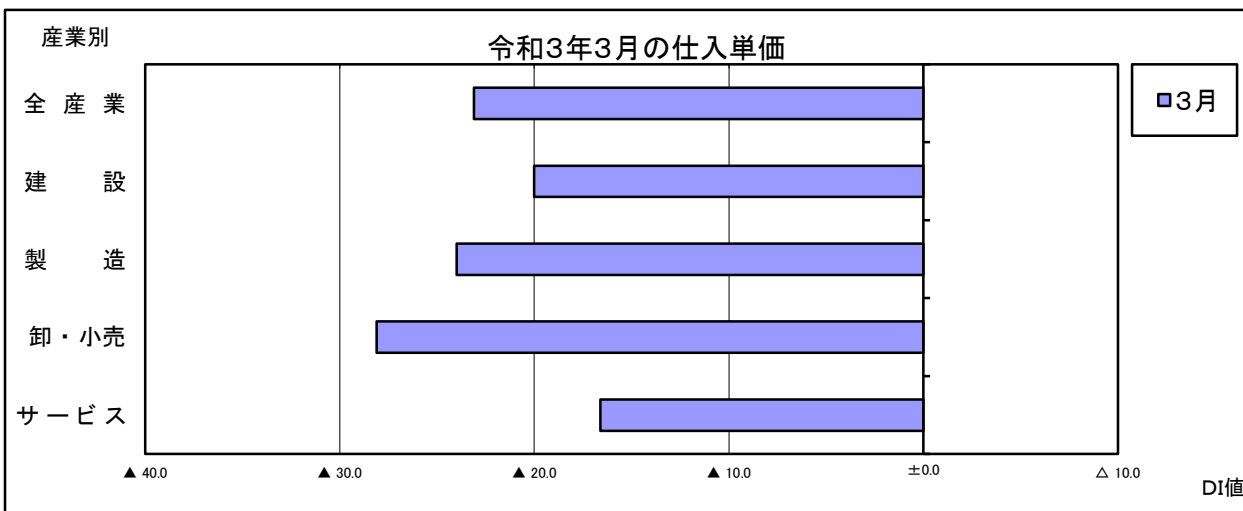
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲24.0(同▲26.0)である。変らない業種は、サービス業▲16.6(同▲16.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲28.1(同▲9.3)、建設業▲20.0(同▲15.7)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲21.0(前月水準▲15.2)となり、マイナス幅が5.8ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、変らない見通しの業種は、サービス業▲5.5(同▲5.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲28.0(同▲17.3)、建設業▲20.0(同▲10.5)、卸小売業▲28.1(同▲21.8)である。

令和3年3月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 10月	11月	12月	令和3年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
全産業	▲25.5	▲22.2	▲14.1	▲20.8	▲16.3	▲23.1	▲21.0(▲15.2)
建設	▲12.5	▲10.5	▲22.2	▲14.2	▲15.7	▲20.0	▲20.0(▲10.5)
製造	▲33.3	▲21.7	▲20.8	▲24.0	▲26.0	▲24.0	▲28.0(▲17.3)
卸・小売	▲32.2	▲33.3	▲12.5	▲32.1	▲9.3	▲28.1	▲28.1(▲21.8)
サービス	▲15.0	▲16.6	±0.0	▲5.8	▲16.6	▲16.6	▲5.5(▲5.5)



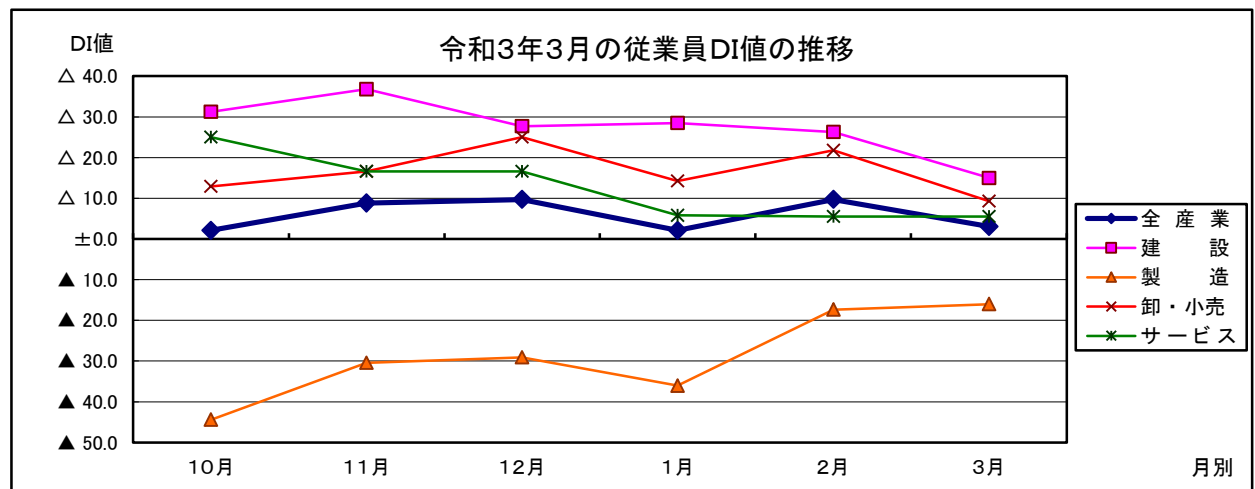
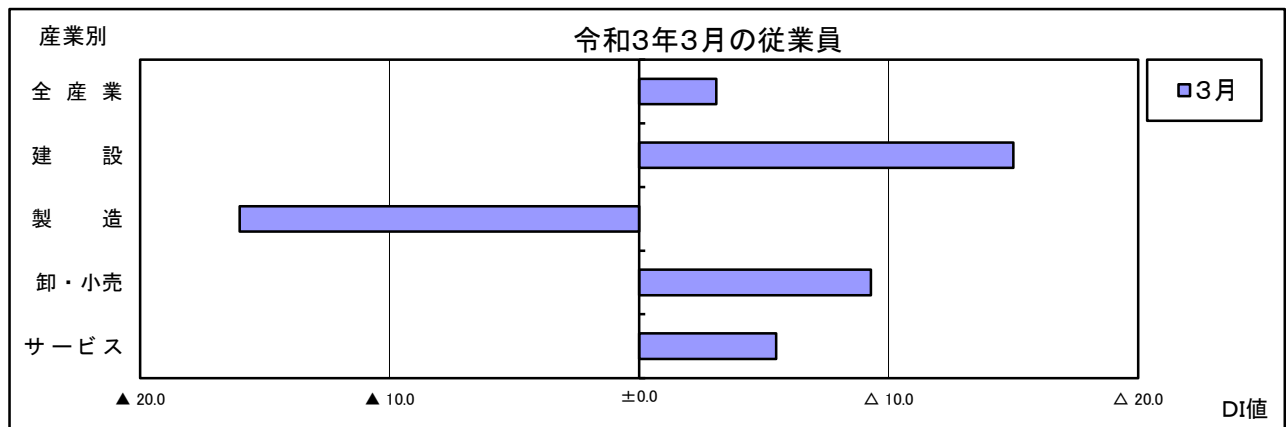
【令和3年3月の従業員についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△3.1(前月水準△9.7)となり、プラス幅が6.6ポイント縮小した。  
 業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲16.0(同▲17.3)である。変らない業種は、サービス業△5.5(同△5.5)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業△9.3(同△21.8)、建設業△15.0(同△26.3)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、△7.3(前月水準△4.3)となり、プラス幅が3.0ポイント拡大する見通しである。  
 業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、サービス業△11.1(同▲5.5)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業±0.0(同▲26.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業△20.0(同△31.5)、卸小売業△6.2(同△15.6)である。

令和3年3月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 10月	11月	12月	令和3年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
全産業	△2.1	△8.8	△9.7	△2.1	△9.7	△3.1	△7.3(△4.3)
建設	△31.2	△36.8	△27.7	△28.5	△26.3	△15.0	△20.0(△31.5)
製造	▲44.4	▲30.4	▲29.1	▲36.0	▲17.3	▲16.0	±0.0(▲26.0)
卸・小売	△12.9	△16.6	△25.0	△14.2	△21.8	△9.3	△6.2(△15.6)
サービス	△25.0	△16.6	△16.6	△5.8	△5.5	△5.5	△11.1(▲5.5)



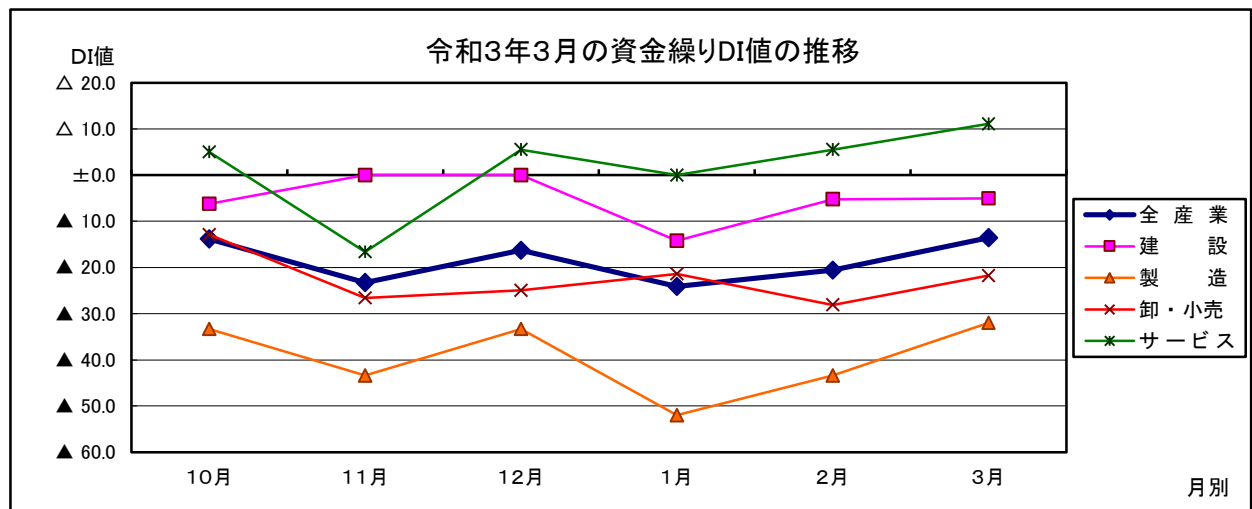
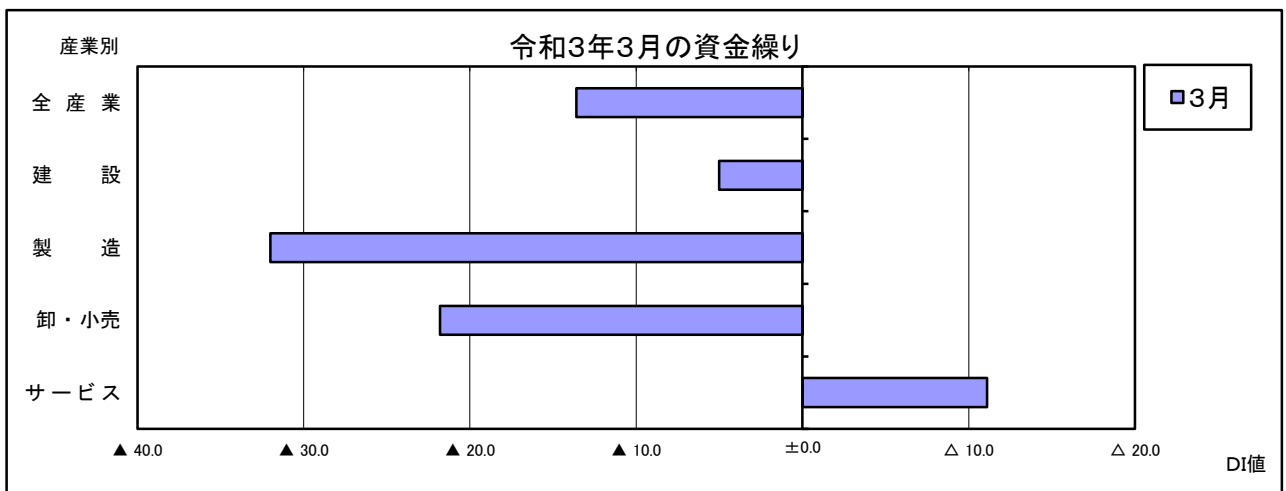
【令和3年3月の資金繰りについての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲13.6(前月水準▲20.6)となり、マイナス幅が7.0ポイント縮小した。  
 業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△11.1(同△5.5)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲32.0(同▲43.4)、卸小売業▲21.8(同▲28.1)、建設業▲5.0(同▲5.2)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲7.3(前月水準▲21.7)となり、マイナス幅が14.4ポイント縮小する見通しである。  
 業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、サービス業△22.2(同▲5.5)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲16.0(同▲34.7)、建設業±0.0(同▲10.5)、卸小売業▲25.0(同▲28.1)である。

令和3年3月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	令和2年 10月	11月	12月	令和3年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
全産業	▲13.8	▲23.3	▲16.3	▲24.1	▲20.6	▲13.6	▲7.3(▲21.7)
建設	▲6.2	±0.0	±0.0	▲14.2	▲5.2	▲5.0	±0.0(▲10.5)
製造	▲33.3	▲43.4	▲33.3	▲52.0	▲43.4	▲32.0	▲16.0(▲34.7)
卸・小売	▲12.9	▲26.6	▲25.0	▲21.4	▲28.1	▲21.8	▲25.0(▲28.1)
サービス	△5.0	▲16.6	△5.5	±0.0	△5.5	△11.1	△22.2(▲5.5)





【令和3年3月の調査結果のポイント】

《全産業DIは2か月連続で改善。感染の再拡大を懸念するも、先行き持ち直しに期待》

3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲30.5(前月水準▲43.4)となり、マイナス幅が12.9ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲5.5(同▲27.7)、卸小売業▲31.2(同▲50.0)、製造業▲52.0(▲65.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲25.0(同▲21.0)である。

自動車、半導体関連の需要増加、洋菓子店では3月のイベント関連商品の売上好調、不動産業では繁忙期入りで好調等のコメントが寄せられ、全産業DIは改善する結果となった。しかし、緊急事態宣言は21日に解除されたものの、飲食店の時短営業は続いており、公共工事の発注量の減少や材料の値上げ等に関してコメントが寄せられている。

先行きDIは▲11.5(今月比+19)と改善を見込む声大きい。製造業は44ポイント改善、サービス業はプラスの指標となっている。

【建設業】からは、「例年通り貸物件の畳工事増加。一般顧客の依頼減。畳縁バッグはオーダー受付を終了し現物販売のみに変えたら売上増(畳)」、「コロナ禍で、公共工事の発注量は減少。民間も新築工事は多少あるが、個人の改修工事の発注は少ない(塗装工事)」、「年度末で駆け込み需要は多いが、今後の発注が不安(土木工事)」、「年度末だから3月末納期の仕事が多く売上のプラスに繋がるも、仕入単価上昇が大きく好転しない(とび)」、「仕事の減少をきっかけに働き方改革が進み、昨年は休日を20日増やし、今年度は週休2日を実施することに(一般土木建築)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「例年通り季節商品を受注でき、今後3ヶ月は好転の見込み(プラスチック製品)」、「材料が納期通り入らず生産に遅れ。社内でISO研修を実施し、従業員のスキルアップ、意識変革もできた。一部では受注量が増加(金属製品)」、「飲食店の時短要請が継続しているため、酒類業界が大きく伸びる事はない。できる限りのコスト削減が必要である(酒類)」、「新企画の医療品容器受注に勢いがつけば、売上増が期待できる(プラスチック加工)」、「定期的な受注製品売上の減少により、厳しい年度末(印刷)」、「売上は上がらず、給付金等により凌いでいる(印刷)」、「テレワークの日数を減らした。景気は若干上向き(鉄鋼業)」、「昨年後半から自動車、半導体が5~10%プラスで推移。しかし、ルネサスエレクトロニクス工場の火災による影響大(金属素形材製品)」、「ペーパーレス化の推進で紙の需要、生産減が影響(織物)」、「4月以降プラスチック原料関連が大幅値上げで、価格交渉に労力がかかる。増員をめざすも人が集まらない(化学工業)」、「同一労働・同一賃金で、社員が定年退職後、嘱託として働く場合は業務を変えないとコストアップ。パート社員と同一労働の場合、パートと同じ給与になる理解も求める必要がある(自動車付属品)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「恵方巻用の海苔販売は、良くも悪くもなかった。対面販売、飲食店向けは期待できない一方で、出張出前寿司、ECサイト販売用などの新規顧客が増えている(農畜産物・水産物卸売)」、「既存顧客より遠方から出張してきた工事業者の購買が目立った(建築材料卸売)」、「コロナの影響が1周し、今後に期待(百貨店)」、「売上が増加したが、昨年はコロナの影響で時短営業をしたので、プラスに転じているに過ぎない。一昨年対比では2ケタ減(各種商品小売)」、「スーパー売上は昨年対比では減少しているだが、一昨年対比では25%増(各種食料品小売)」、「コロナで昨年に続き卒業関連の特注が入らなかった(洋菓子店)」、「ひな祭り、ホワイトデーは予想より良かった。謝恩会等は中止だが、個別の焼菓子は好調(洋菓子店)」、「ひなまつりは家でのパーティーで好調。お彼岸用の仏花は動きが鈍かった(大型小売店)」、「人出は増えたが売上につながらない。空き店舗がなかなか埋まらない(各種商品小売)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「デジタル化導入に期待(ソフトウェア)」、「宴会、接待需要は期待できないまま。支援金は売上高など、店舗規模に応じた配分をしてほしい(日本料理)」、「繁忙期で需要は多い。都内の学生向け賃貸は苦戦(不動産賃貸・管理)」、「お客様の景気動向は、まだら模様。好業績の会社も出てきており、全面的な不況とはいえない(税理士)」、「昨年のこの時期は新規入会の問い合わせが止まっていたが、今年はコンスタントにある。変異型ウィルスの影響が心配(学習塾)」、「緊急事態宣言が明け、多少業界の動きが活発化。年度末の急な案件が多く一時的に好転したが、引き続き新規開拓が必要(広告代理)」、「市の土地建物・建設への緩和政策等を願いたい(不動産賃貸)」、「国交省が「標準的な運賃」示したが、運賃の値上げになるため荷主と交渉できずにいるのが実状(一般貨物自動車運送)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
10月	▲34.0	▲12.5	▲62.9	▲32.2	▲15.0
11月	▲46.6	▲21.0	▲69.5	▲50.0	▲38.8
12月	▲46.7	▲11.1	▲66.6	▲59.3	▲33.3
1月	▲54.9	▲42.8	▲72.0	▲57.1	▲41.1
2月	▲43.4	▲21.0	▲65.2	▲50.0	▲27.7
3月	▲30.5	▲25.0	▲52.0	▲31.2	▲5.5
見通し	▲11.5	▲10.0	▲8.0	▲28.1	△11.1

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 18.9	▲ 17.8	▲ 26.3	▲ 17.8	▲ 23.1	▲ 21.0	△ 3.1	△ 7.3
建設	▲ 15.0	▲ 25.0	▲ 30.0	▲ 25.0	▲ 20.0	▲ 20.0	△ 15.0	△ 20.0
製造	▲ 48.0	▲ 12.0	▲ 48.0	▲ 8.0	▲ 24.0	▲ 28.0	▲ 16.0	±0.0
卸・小売	▲ 25.0	▲ 28.1	▲ 34.3	▲ 34.3	▲ 28.1	▲ 28.1	△ 9.3	△ 6.2
サービス	△ 22.2	▲ 5.5	△ 22.2	△ 11.1	▲ 16.6	▲ 5.5	△ 5.5	△ 11.1

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 30.5	▲ 11.5	▲ 13.6	▲ 7.3
建設	▲ 25.0	▲ 10.0	▲ 5.0	±0.0
製造	▲ 52.0	▲ 8.0	▲ 32.0	▲ 16.0
卸・小売	▲ 31.2	▲ 28.1	▲ 21.8	▲ 25.0
サービス	▲ 5.5	△ 11.1	△ 11.1	△ 22.2

## 令和3年3月CCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲30.5に対し、「CCI-LOBO」が▲35.3で柏の方がマイナス幅が4.8ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業であり、製造業は10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲18.9に対し、「CCI-LOBO」が▲34.3で柏の方がマイナス幅が15.4ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、卸小売業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業であり、10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲26.3に対し、「CCI-LOBO」が▲33.9で柏の方がマイナス幅が7.6ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業であり、製造業は10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲23.1に対し、「CCI-LOBO」が▲25.7で柏の方がマイナス幅が2.6ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業であり、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業である。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△3.1に対し、「CCI-LOBO」が△6.4で柏の方がプラス幅が3.3ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業であり、建設業、製造業は10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲13.6に対し、「CCI-LOBO」が▲20.9で柏の方がマイナス幅が7.3ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、卸小売業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業であり、10ポイント以上悪い。

【令和3年3月業種別業界内トピックス】


業種別	概況	トピック	業種
建設業	例年通り3月は貸物件の畳工事増加。一般の顧客依頼は減。畳縁バッグはオーダー受付を終了し、現物販売のみに変えたら売上増。	畳工事増加	畳工事請負・畳製造販売業
	コロナ禍で、公共工事の発注量は減少している。民間も新築工事は多少あるが、個人の改修工事の発注は少ない状況。	公共工事減少	塗装工事業
	年度末で駆け込み需要は多い。年度が変わった後の発注が不安。	駆け込み需要	土木工事業
	年度末が影響しているのか、駆け込みで3月末までに仕事の完成が望まれが多く、3月末の請求に大きく影響して、売上プラスにつながっている。しかし、仕入単価が大きく値上がりしており、好転とはならない。	駆け込み需要 仕入単価値上がり	とび
	仕事が減少したことをきっかけに働き方改革が進んだ。昨年は休日を20日増やし、今年度は週休2日を実施することとした。	働き方改革	一般土木建築工事業
製造業	例年4～6月は季節商品が動き、今年も例年通り受注できたため、向こう3ヶ月は今月よりも好転する見込み。	季節商品受注	プラスチック製品
	材料が納期通り入ってこないで生産が遅れている。社内でISO研修を実施。内部監査や今後の審査に向けて従業員のスキル向上が目的。意識変革もできた。一部では受注量が増えてきている。今後も順調に推移してほしい。	先行き好転見込み	金属製品
	緊急事態宣言は解除されたが飲食店の時短要請等は継続されているため、酒類業界が大きく伸長することはない。製造量及び販売量が減少する中で、人件費をはじめとする固定費は増加するため、できる限りのコストリダクションを実施する必要がある。	飲食店の時短要請の影響 コスト削減	酒類製造業
	新型コロナの影響で落ちこんだ化粧品容器の受注に回復傾向が見られないが、年度明けで新企画に切り替わる予定の医療品容器の受注に勢いがつけば、売上増が期待ができる。	衣料品容器の新規企画に期待	プラスチック加工
	売上は相変わらず、低迷！通常であれば、3月は業績の見込まれる月であるが、残念ながら今回は定期的な受注製品の売上額減少により、厳しい3月年度末となった。	定期受注売上減少	印刷業
	売上は上がらず、資金繰りは給付金等により凌いでいる状況。まだまだ先行きが見えてこない。	売上低迷	印刷業
	緊急事態宣言が解除され、テレワークを週3日から1～2日程度に緩和。景気は若干上向きになっているので、生産部門では減耗不補充から補充にシフト。	テレワーク 景況感改善	鉄鋼業
	昨年後半から自動車、半導体が5～10%プラスで推移。しかし、ルネサスエレクトロニクスの火災により、復旧に3、4か月かかる見通しで影響大。需要の拡大がすすむ中、停滞してしまう。素材の高騰と人材不足が課題。	自動車、半導体需要増加	金属素材製品製造業
	新型コロナウイルスの影響で営業活動に支障があるので、向こう3か月程度では急激な回復は見込めないと考えられる。ワクチンの接種が進めば順調に回復すると考えられるが、第4波の大きな流行が来ると経済の回復はますます遅れる。PCR検査によるピンポイントの押さえ込みか、ワクチンの接種の早期達成しか方法はないと考える。	ワクチン接種に期待	一般産業用機械・装置製造業
	ペーパーレス化の推進による、紙の需要、生産減が影響している。	ペーパーレス化による需要減	織物業
	4月以降、プラスチック原料関連が大幅値上げになるため、価格交渉に労力がかかる。増員をめざしているが、なかなか人が集まらない。	プラスチック原料値上げ	化学工業
社員の定年退職後、嘱託となって同じ職場で働く場合は、今までと同じ給与にする必要があり、勤務時間を短縮したり、配置転換して業務内容そのものを変えないとコストアップ。パート従業員と同一労働となる場合、今まではパート社員と異なった賃金体系だったが、同じ賃金になる理解を求めざるを得なくなった。	同一労働・同一賃金	自動車付属品製造業	
卸・小売業	2月は海苔屋にとって最大のイベントである節分の恵方巻用の海苔販売があったが、悪くもよくもなかった。緊急事態宣言解除で多少の出荷量の増大は期待できているが、既存の対面販売、飲食店向けは大きく期待できない気がする。一方で出張出前寿司、ECサイト販売用など、新規顧客が増えているのも事実。柔軟にとらえて販売先を増やしていきたい。	新規顧客獲得	農畜産物・水産物卸売業
	既存の顧客より遠方より出張してきた工事業者の購買が目立った。	遠方事業者による売上増加	建築材料卸売業
	新型コロナウイルスの影響が1周し、今後に期待。	先行きに期待	百貨店
	昨年はコロナの影響で2月28日より時短営業していた為プラスに転じているが、一昨年対比では2ケタ減。4月は昨年の臨時休業していた為、単純比較では大きく昨年を上回る想定であるが、実際の回復にはならない見通し。	売上減少	各種商品小売業
	スーパーマーケットの売上は、昨年対比では減少しているも、一昨年対比では25%増。当面同じような傾向が続くと思われる。	売上増加	各種食料品小売業
	昨年に続きコロナ禍で卒業関連の特注が入らなかった。	卒業関連注文ゼロ	洋菓子店
	緊急事態宣言中、最初は20時を境に人出が減少していたが、3月に入ってから普段とそれ程変わらなくなった。ひなまつりは外食ではなく、家でパーティーの傾向が強くなり好調だった。墓参りを控えている人が多いのか、お彼岸用の仏花の動きは鈍かった。	ひなまつり好調 彼岸用物価不調	大型小売店
	3月のひな祭り、ホワイトデーは予想より良かった。謝恩会などは中止だが、個別の焼菓子も好調。	ひなまつり、ホワイトデー商品好調	洋菓子店
緊急事態宣言延長でも、柏駅前は日に日に人出は増加しているようにみえた。ただし、売上にはあまりつながらない。空き店舗への問い合わせがなく、なかなか埋まらない。	空き店舗埋まらず	各種商品小売業	











【令和3年3月業種別業界内トピックス】











サービス業	デジタル化導入に期待しています。	デジタル化	ソフトウェア業
	緊急事態宣言解除も、宴会、接待の需要はしばらく期待できず、先行きの回復目処たらず。支援金は売上高など店舗規模に応じた配分をしてほしい。	先行き不透明 事業規模に応じた支援金支給を要望	日本料理
	繁忙期の賃貸需要は旺盛に推移。都内の学生向け賃貸は苦戦中。実態経済を伴わない株高が気になる。	繁忙期にて好調	不動産賃貸・管理業
	コロナ禍にも関わらず、来客数、売上ともに増加。在庫不足の状態、先行きの販売物件不足を懸念している。今後、どのように世の中が動いていくのか、見通しがつかない。	来客数、売上増加	不動産管理業
	お客様の景気の動向は、まだら模様。好業績の会社も出てきており、全面的な不況とはいえない。	業況はまだら模様	税理士
	新型コロナの影響で、昨年はこの時期から新規入会の問合せがぴったりと止まっていたが、今年は緊急事態宣言が解除されたこともあって、コンスタントに続いている。ただ、最近拡大し始めている変異型ウイルスが、子どもたちへの感染リスクが高いという話を聞くと、今後学校閉鎖などが起こる可能性も高まるのではないかと心配である。	新規入会問い合わせ 変異ウイルス	学習塾
	緊急事態宣言も明けたことで多少業界の動きも活発になってきているものの、コロナの影響は未だ続いている。当社においては年度末で急な案件が多くあり好転したが、一時的なものである。引き続き新規の開拓が必要である。	新規開拓	広告代理業
	第4波の影響が怖い、市の土地・建物、建設への緩和政策等をお願いしたい。緩和さえできればお金を産める。	土地建物・建設への緩和政策を要望	不動産賃貸業
	国交省から「標準的な運賃」が告示され、荷主との交渉に活用したいが、運賃の値上げになることから、コロナ禍の中、交渉には至っていないのが実状である。	「標準的な運賃」の告示	一般貨物自動車運送業
営業時間が20時までの期間がもうすぐ終わるので、その後の売上アップに期待する。	時短営業終了後に期待	食堂・レストラン	











# 令和3年3月の柏の景気天気図











柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較











景気天気図	 特に好調 DI ≥ 50	 好調 50 > DI ≥ 25	 まあまあ 25 > DI ≥ 0	 不振 0 > DI ≥ ▲25	 極めて不振 ▲25 > DI
-------	--	---	--	--	--











業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 30.5	 ▲ 25.0	 ▲ 52.0	 ▲ 31.2	 ▲ 5.5
CCI—LOBO	 ▲ 35.3	 ▲ 18.4	 ▲ 33.6	 ▲ 33.9	 ▲ 48.5

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 18.9	 ▲ 15.0	 ▲ 48.0	 ▲ 25.0	 22.2
CCI—LOBO	 ▲ 34.3	 ▲ 16.7	 ▲ 36.5	 ▲ 27.5	 ▲ 46.5

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 26.3	 ▲ 30.0	 ▲ 48.0	 ▲ 34.3	 22.2
CCI—LOBO	 ▲ 33.9	 ▲ 22.5	 ▲ 31.7	 ▲ 27.0	 ▲ 48.3

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 23.1	 ▲ 20.0	 ▲ 24.0	 ▲ 28.1	 ▲ 16.6
CCI—LOBO	 ▲ 25.7	 ▲ 35.1	 ▲ 28.6	 ▲ 20.0	 ▲ 20.9

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 3.1	 15.0	 ▲ 16.0	 9.3	 5.5
CCI—LOBO	 6.4	 25.1	 ▲ 0.8	 9.8	 1.8

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 13.6	 ▲ 5.0	 ▲ 32.0	 ▲ 21.8	 11.1
CCI—LOBO	 ▲ 20.9	 ▲ 5.6	 ▲ 18.1	 ▲ 24.5	 ▲ 33.5

# CC I - L O B O

## 商工会議所早期景気観測(3月速報)

調査期間：2021年3月16日～22日

調査対象：全国の336商工会議所が2,737企業にヒアリング調査を実施

**全国の業況**  
業況DIは、持ち直しの兆しも、依然厳しい状況。先行きは回復への期待感みられるも、警戒感続く

3月の全産業合計の業況DIは、▲35.3と、前月から+11.5ポイントの改善。デジタル投資の増加を背景に需要が伸びている半導体関連や堅調な自動車関連の製造業のほか、飲食料品・家電製品を中心に巣ごもり消費に下支えされた小売業で業況感が改善した。また、一部地域では、緊急事態宣言の解除に伴い、飲食店などで日中の客足が回復し、売上に持ち直しの動きがみられた。しかし、原油価格の上昇による燃料費の増大等のコスト負担増や年度末の資金繰りを不安視する声も多く、中小企業の景況感は持ち直しの兆しがみられるものの、依然厳しい状況が続く。

先行きについては、先行き見通しDIが▲29.1（今月比+6.2ポイント）と改善を見込む。ワクチンによる感染抑制や、緊急事態宣言解除に伴う客足回復への期待

感から、小売業や飲食業を中心に持ち直しを見込む。一方で、雇用調整助成金の特例措置などの政策効果剥落後や資金繰りの悪化、経済活動の再開に伴う感染再拡大への懸念のほか、原材料費や燃料費の上昇等による採算悪化を不安視する声も多く、警戒感が続く。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

**業種別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、全ての業種で改善した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。**

**【建設業】**「公共工事は国土強靱化の予算増額を受け、今後も受注増を見込んでいます。ただし、企業の設備投資については減少傾向が続いているほか、鋼板等の建設資材の価格上昇による採算の悪化を懸念している」（一般工事業）、「給排水設備など公共工事の受注により売上を確保しているが、民間工事の減少に伴い、公共工事の入札

事業者が増え、競争は激化している」（管工事業）

**【製造業】**「新型コロナウィルスの影響を受け始めた前年同月比では業況は改善。新規顧客の開拓を続けてきた結果が出始めており、販売先増加により、売上を確保している」（水産食料品製造業）、「産業用ロボット、半導体製造用、プラスチック成型機の受注が伸び、売上は改善。ただし、原材料価格が上昇しているため、今後は販売価格を交渉し、採算確保を図る必要がある」（金属熱処理業）

**【卸売業】**「1都3県の飲食店からの引き合いが鈍かったが見込んでいます。従来はBtoBの取引を主に行っていたが、今後はBtoCの販路開拓をしていくため、ECサイト構築を予定している」（農畜水産物卸売業）、「光ファイバーケーブルやネットワーク機器を商材として扱っており、コロナ禍でも売上は堅調。今年度は県・市からの受注が大半を占めたが、今後は民間からの受注に期待したい」（一般機械器具卸売業）

**【小売業】**「地域の新規感染者数が減少に転じたこともあり、若年層、ファミリー層を中心に週末の来店客数が増加し、業況は改善。先行きについても、新生活の準備や贈答品の需要増による売上増加を期待している」（百貨店）、「マスク着用が習慣化されたことから、今後は消費者からの需要が高まっているスキンケア商品の品揃えを強化し、売上改善を図る。昨年は新型コロナウィルス感染拡大の第一波により3月から休業を余儀なくされたため、前年同時期との比較では、先行きは改善する見込み」（化粧品小売業）

**【サービス業】**「自治体による地元住民限定の宿泊割引キャンペーンの効果で、客数が増加し、売上の大幅な改善につながった」（宿泊業）、「貸切パーティーなど、大人数での売上が見込めないため、ランチメニューの充実などを含め、『おひとりさま』に対応したサービスを検討し、今後の売上確保を図る」（飲食業）

### 全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
10月	▲50.2	▲25.8	▲63.9	▲47.8	▲45.3	▲57.2
11月	▲45.8	▲26.8	▲54.1	▲39.0	▲41.5	▲56.1
12月	▲46.1	▲26.9	▲53.4	▲45.3	▲45.5	▲53.0
1月	▲49.5	▲27.1	▲48.5	▲49.0	▲49.5	▲64.7
2月	▲46.8	▲24.9	▲44.8	▲47.7	▲45.8	▲63.0
3月	▲35.3	▲18.4	▲33.6	▲35.0	▲33.9	▲48.5
見通し	▲29.1	▲26.9	▲21.2	▲25.8	▲33.6	▲35.7



# 柏の景気情報 (令和3年3月の調査結果のポイント)

## ★調査結果のまとめ

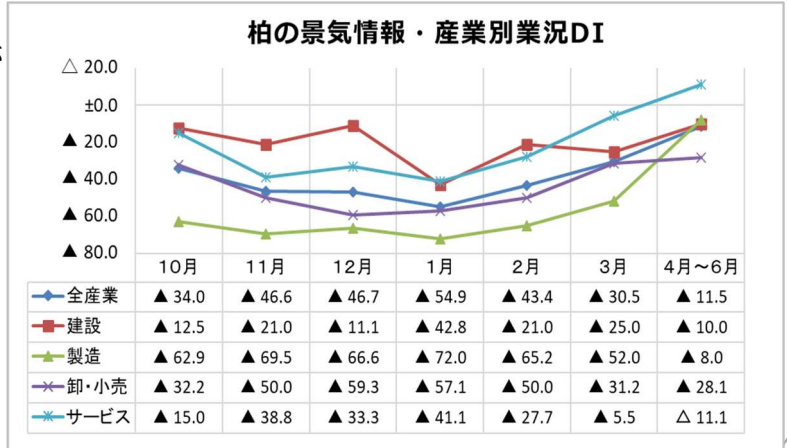
調査期間：令和3年3月25日～4月7日 調査対象：柏市内130事業所及び組合にヒアリング、回答数95件

### 全産業DIは2か月連続で改善。感染の再拡大を懸念するも、先行き持ち直しに期待

3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲30.5(前月水準▲43.4)となり、マイナス幅が12.9ポイント縮小した。

自動車、半導体関連の需要増加、洋菓子店では3月のイベント関連商品の売上好調、不動産業では繁忙期入りで好調等のコメントが寄せられ、全産業DIは改善する結果となった。しかし、緊急事態宣言は21日に解除されたものの、飲食店の時短営業は続いており、公共工事の発注量の減少や材料の値上げ等に関してコメントが寄せられている。

先行きDIは▲11.5(今月比+19)と改善を見込む声が多い。製造業は4.4ポイント改善、サービス業はプラスの指標となっている。



## ★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化

建設業

「例年通り貸物件の畳工事増加。一般顧客の依頼減。畳縁バッグはオーダー受付を終了し現物販売のみに変えたら売上増(畳)、「コロナ禍で、公共工事の発注量は減少。民間も新築工事は多少あるが、個人の改修工事の発注は少ない(塗装工事)、「年度末で駆け込み需要は多いが、今後の発注が不安(土木工事)、「年度末だからか3月末納期の仕事が多く売上のプラスに繋がるも、仕入単価上昇が大きく好転しない(とび)、「仕事の減少をきっかけに働き方改革が進み、昨年は休日を20日増やし、今年度は週休2日を実施することに(一般土木建築)」

製造業

「例年通り季節商品を受注でき、今後3ヶ月は好転の見込み(プラスチック製品)、「材料が納期通り入らず生産に遅れ。社内でISO研修を実施し、従業員のスキルアップ、意識変革もできた。一部では受注量が増加(金属製品)、「飲食店の時短要請が継続しているため、酒類業界が大きく伸びる事はない。できる限りのコスト削減が必要である(酒類)、「新企画の医療品容器受注に勢いがつけば、売上が期待できる(プラスチック加工)、「定期的な受注製品売上の減少により、厳しい年度末(印刷)、「売上は上がらず、給付金等により凌いでいる(印刷)、「テレワークの日数を減らした。景気は若干上向き(鉄鋼業)、「昨年後半から自動車、半導体が5～10%プラスで推移。しかし、ルネサスエレクトロニクス工場の火災による影響大(金属素形材製品)、「ペーパーレス化の推進で紙の需要、生産減が影響(織物)、「4月以降プラスチック原料関連が大幅値上げで、価格交渉に労力がかかる。増員をめざすも人が集まらない(化学工業)、「同一労働・同一賃金で、社員が定年退職後、嘱託として働く場合は業務を変えないとコストアップ。パート社員と同一労働の場合、パートと同じ給与になる理解も求める必要がある(自動車付属品)」

卸・小売業

「恵方巻用の海苔販売は、良くも悪くもなかった。対面販売、飲食店向けは期待できない一方で、出張出前寿司、ECサイト販売用などの新規顧客が増えている(農畜産物・水産物卸売)、「既存顧客より遠方から出張してきた工事業者の購買が目立った(建築材料卸売)、「コロナの影響が1周し、今後に期待(百貨店)、「売上が増加したが、昨年はコロナの影響で時短営業をしたので、プラスに転じているに過ぎない。一昨年対比では2ケタ減(各種商品小売)、「スーパー売上は昨年対比では減少しているのだが、一昨年対比では2.5%増(各種食料品小売)、「コロナで昨年に続き卒業関連の特注が入らなかった(洋菓子店)、「ひな祭り、ホワイトデーは予想より良かった。謝恩会等は中止だが、個別の焼菓子は好調(洋菓子店)、「ひなまつりは家でパーティーで好調。お彼岸用の仏花は動きが鈍かった(大型小売店)、「人出は増えたが売上に繋がらない。空き店舗がなかなか埋まらない(各種商品小売)」

サービス業

「デジタル化導入に期待(ソフトウェア)、「宴会、接待需要は期待できないまま。支援金は売上高など、店舗規模に応じた配分をしてほしい(日本料理)、「繁忙期で需要は多い。都内の学生向け賃貸は苦戦(不動産賃貸・管理)、「お客様の景気動向は、まだら模様。好業績の会社も出てきており、全面的な不況とはいえない(税理士)、「昨年この時期は新規入会の問い合わせが止まっていたが、今年はコンスタントにある。変異型ウィルスの影響が心配(学習塾)、「緊急事態宣言が明け、多少業界の動きが活発化。年度末の急な案件が多く一時的に好転したが、引き続き新規開拓が必要(広告代理)、「市の土地建物・建設への緩和政策等をお願いしたい(不動産賃貸)、「国交省が「標準的な運賃」示したが、運賃の値上げになるため荷主と交渉できずにいるのが実状(一般貨物自動車運送)」

## ★全国の商工会議所早期景気観測調査(CCI-LOBO)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲30.5に対し、「CCI-LOBO」が▲35.3で柏の方がマイナス幅が4.8ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業であり、製造業は10ポイント以上悪い。